

4 河川水質の環境ホルモン調査結果

- (1) 調査概要
- (2) 平成27年度結果の概要
- (3) 経年変化

図 平成27年度河川における環境ホルモン調査地点

4 河川水質の環境ホルモン調査結果

(1) 調査概要

本市では、市内河川における環境ホルモン（内分泌かく乱化学物質）による汚染状況を把握するため、ノニルフェノール等4物質について、7河川11地点で調査を行いました。

調査項目及び各物質の主な使用用途は下表のとおりです。

	物質名	用途
1	ノニルフェノール	界面活性剤の原料
2	4-t-オクチルフェノール	界面活性剤の原料
3	ビスフェノールA	樹脂の原料
4	o,p'-DDT	殺虫剤

(2) 平成27年度結果の概要

平成27年度の調査結果では、全地点で全項目が検出されませんでした。

(単位：μg/L)

調査項目	鴨川				西高瀬川
	高橋	出町橋	三条大橋	京川橋	上河原橋
ノニルフェノール	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1
4-t-オクチルフェノール	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
ビスフェノールA	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
o,p'-DDT	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01

調査項目	高野川		有栖川	天神川	小畑川	山科川
	三宅橋	河合橋	梅津新橋	西京極橋	東川原橋	新六地藏橋
ノニルフェノール	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1
4-t-オクチルフェノール	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
ビスフェノールA	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
o,p'-DDT	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01

<参考> ノニルフェノールについては、環境基準の水域類型により0.6～2 μg/Lの範囲で環境基準が設定されています。

4-t-オクチルフェノールについては、環境基準の水域類型により0.7～4 μg/Lの範囲で指針値が設定されています。

ビスフェノールA及びo,p'-DDTについては、環境基準及び指針値は設定されていませんが、環境省により魚類に対する試験結果から算定された予測無影響濃度（環境中の生物に対して有害な影響を及ぼさないと予想される濃度）は、ビスフェノールAでは24.7 μg/L又は47 μg/L（なお、国土交通省は、24.7 μg/Lを採用している。）、o,p'-DDTでは0.0145 μg/Lです。

(3) 経年変化

年 度	2 5		2 6		2 7	
	検出地点数 調査地点数 (%)	濃度範囲 ($\mu\text{g/L}$)	検出地点数 調査地点数 (%)	濃度範囲 ($\mu\text{g/L}$)	検出地点数 調査地点数 (%)	濃度範囲 ($\mu\text{g/L}$)
ノニルフェノール	0 / 11 (0)	<0.1	1 / 11 (9)	<0.1~0.1	0 / 11 (0)	<0.1
4-t-オクチルフェノール	5 / 11 (45)	<0.01~0.05	0 / 11 (0)	<0.01	0 / 11 (0)	<0.01
ビスフェノールA	1 / 11 (9)	<0.01~0.01	0 / 11 (0)	<0.01	0 / 11 (0)	<0.01
o, p'-DDT	0 / 11 (0)	<0.01	0 / 11 (0)	<0.01	0 / 11 (0)	<0.01

河川における環境ホルモン調査地点

